

# 横浜市立小雀小学校 令和3年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
豊かに学び 認め合い 咲かせよう 笑顔と満足の花	<p>&lt;自分づくりに関する力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夢や希望をもち、なりたい自分や生き方を追求する姿勢</li> <li>○問題解決に向かって粘り強く取り組む姿勢</li> <li>○他者を理解し多様性を尊重する態度</li> </ul>

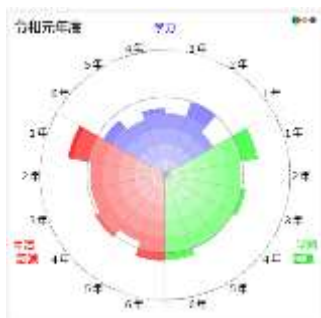
### (2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの夢や希望を育みながら、まちとともに歩む学校づくりを推進します。</li> <li>・一人ひとりの子どもが学習の楽しさを味わえる授業づくりを推進し、学力の向上に努めます。</li> <li>・一人ひとりの子どもが安心して居る場所を保証し、自尊感情を高めるとともに、互いの違いを認め、大切にしようとする子どもを育てます。</li> <li>・まちの人とのつながりを大切に、豊かな体験を通して、自分の将来の姿や生き方を追求していく姿勢を育てます。</li> <li>・全職員の協働意識を大切にしながら学校運営や教育課題に取り組む中で、職員の資質を高めていきます。</li> </ul>

### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
自分づくり教育 基礎学力向上	①「キャリアパスポート」を通して、学習や活動の内容を記録し、自己の生き方や進路について真剣に考える環境づくりを行う。②前年度の生活意識調査や、前年度以降の学習状況調査のデータから、学習の実態を捉え、日々の授業実践や学級経営に活かす。③年4回、「チュンチュン漢字テスト」の日を設け、学校一斉のチャレンジテストに取り組むことで学力向上を図る。
担当	学力向上・評価委員会

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



### (1) 要因の分析

全体の学力は、横浜市の平均を下回っている。学習意識は各学年とともに市の平均を上回っている。「学習が好き」と答えている児童は市の平均と同じ76%となっている。

教師は、児童の「学習が好き」という気持ちを大切に、授業を組み立てていく必要がある。授業のねらいでは、主体的に学び、問題意識をもてるような課題を取入れていくようにする。また、「分かる」楽しさを実感できるようにし、学習意欲の向上を図っていく必要がある。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：「書く能力」「読む能力」は特に課題である。「話す・聞く能力」では、市の平均を上回る学年も多く、過去3年で少しずつ上昇している。
- 社会科：意欲的に取り組む児童が少しずつ上昇している。「思考・判断・表現」は、過去3年間で下がっている傾向がある。
- 算数科：意欲的に学習に取り組む児童が多い。特に「知識・理解」が課題である。
- 理科：意欲的に学習に取り組む児童が多い。特に「技能」が課題。

### (3) 生活意識調査の状況

「人と関わるのが好き」という児童は、92%で市の平均を上回る。生活科や総合学習の「横浜の時間」が好きという児童も市の87%を上回る90%となっている。

一日の読書時間は30分以上の児童が42%であるが、学校図書館に行くのが好きという児童が86%となっており、横浜市の平均を上回る。

一日の勉強時間が30分以下の児童が56%で、市の平均46%を上回る。授業では自分の考えを発表している児童が、66%と市の平均62%を上回っている。